

# 乳幼児・小児のワクチン接種に関する基本情報

	乳幼児（6か月～4歳）	小児（5～11歳）
使用するワクチン	ファイザー社の小児用ワクチン （成分量は12歳以上のワクチンの10分の1） 1回目の接種時に4歳だったお子様が、3回目の接種時まで5歳の誕生日を迎えた場合、3回目接種にも1回目と同じ乳幼児（6か月～4歳）用ワクチンを使用します。	ファイザー社の小児用ワクチン （成分量は12歳以上のワクチンの3分の1） 〔初回接種〕 従来型1価ワクチン 〔追加接種〕 オミクロン株対応2価ワクチン 1回目の接種時に11歳だったお子様が、2回目接種時まで12歳の誕生日を迎えた場合は、2回目接種も1回目と同じワクチンを使用します。
初回接種	初回接種 3回 （1回目と2回目の接種間隔は3週間） （2回目接種完了日から8週間）	初回接種 2回 （1回目と2回目の接種間隔は3週間）
追加接種	設定されていません。	前回接種と初回接種の接種間隔は3ヶ月です。 ●令和4年秋開始接種（令和5年3月8日～8月） 初回接種を完了している、5～11歳の方 ※従来型1価ワクチンでの3回目接種の有無は問いません。 ●令和5年春開始接種（令和5年5月8日～8月） 初回接種を完了している5～11歳の型で、 <b>基礎疾患のある方その他重症化リスクが高いと医師が認める方</b> 。※令和4年秋開始接種の有無は問いません。
接種を受ける際の費用	全額公費で接種を行うため、 <b>無料で接種</b> できます。（令和6年3月31日まで）	
接種が受けられる場所	医療機関や接種会場は、各市町村からの案内文書、ホームページや広報、接種総合サイト「コロナワクチンナビ」などでご確認ください。	
ワクチン接種の必要性	乳幼児においても重症例が確認されており、基礎疾患がない乳幼児でも死亡する例があります。有効性や安全性、感染状況を踏まえ、乳幼児を対象にワクチン接種を進めることとされました。	小児においても中等症や重症例が確認されており、特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には接種の機会を提供することが望ましいとされています。
ワクチンの副反応	接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されていますが、ほとんどが軽度又は中等度であり回復していること、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されています。	
接種を受ける際の保護者の同意	新型コロナウイルスワクチンの接種を受けることは強制ではありません。予防接種の効果と副反応のリスクの双方についてしっかり情報提供が行われた上で、接種を受ける方の同意がある場合に限り、自らの意思で接種を受けていただいています。16歳未満の方の場合は、保護者（親権者または後見人）の同伴と予診票への保護者の署名が必要で、保護者の同意なく接種が行われることはありません。	